

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100867		
法人名	社会福祉法人 愛誠会		
事業所名	グループホームあそだ		
所在地	熊本市北区麻生田2丁目5番41号		
自己評価作成日	令和3年3月16日	評価結果市町村受理日	令和3年8月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和3年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

感染症対策を行いながら認知症があってもその人らしい生活が出来るよう、それぞれの生活ベースを考えたケアや環境作りを行い、個性や人間性を尊重しながら日々の支援を心がけています。事故・感染予防、安全で安心できる生活環境の提供に努め、余暇活動の充実により楽しく生活が送れるホームを目標としています。
ホーム理念(入居者が地域住民として地域の皆様方に親しまれるように、地域に貢献し、笑顔で安心して楽しく生活を送れる施設作りを行います。)と法人スローガン(私たちは社会福祉法人愛誠会の職員として、我が建学の精神を大切に、スペシャリティ・ホスピタリティ・コンプライアンスそしてパーソナルケア・ユマニチュードと7つの0を追求するプロの組織集団として入所者・利用者の皆様から心より信頼して頂ける、お客様本位の笑顔に満ちた、清潔で明るいやさしい施設・事業所作り、そして仲間作りと加算取得に積極的且つ主体性をもって真剣に取り組むぞ。熊本市NO.1を目指して)実現のため、職員個々のスキルアップに努め、ご利用者様ご家族様から信頼して頂けるホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設当初に植えられた桜がホームの年月を語り、理念とした掲げる地域住民の目を楽しませている。入居者の入れ替わりも少なく、長く勤務する職員との馴染みの関係性ができあがり、職員の優しいケアの中で、体操や歌を口ずさむ等の集団ケアと、新聞を読んだり読書等自由な生活が繰り広げられている。福祉法人の中のホームとして、食支援や研修会によるケア向上等そのスケールメリットを生かしている。今年度は、感染症対策により地域の中で生活や近隣との交流が難しい状況にあり、ドライブや神社への散歩等創意工夫している。入居者を第一として楽しく、家族にも安心感があるホームを目指すと共に、地域福祉の拠点作りへ意欲的であり、今後の取り組みに大いに期待したいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所・法人の理念は、スタッフ室の壁に掲示し、いつでも確認できるようにしている。会議開催の折には唱和して周知に努めている。	法人としてのスローガンや理念等の掲示による意識強化を図り、検討部会時等唱和をすることで周知徹底に努めている。同法人から異動してきた新たな管理者は、入居者を第一として、入居者の日常生活が楽しく、家族にも安心したホームにしたいと意欲的な姿勢である。	管理者は、入居者・家族・職員及び地域との信頼関係作りにも更に努めたいとしており、新管理者のポリシー等目指すホーム像を理念にする等、今一度原点に立ち戻り全職員で検討されることが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症対策にて地域交流を行っていない。	自治会に加入し、掃除当番を行う等地域の広報誌により情報をリサーチしながら活動しているが、コロナ禍により、交流することは難しい状況にある。新管理者は、自治会長や民政委員等へ挨拶に周り、自治会の話し合いに参加を予定している。	地域の福祉の拠点になりたいとする熱い思いもあり、コロナ感染症の収束により、これまで関わりのあった地域関係者との交流の再開に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関する勉強会を毎月実施している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症対策にて会議を開催せず、資料配布を行っている。	今年は、書面開催として資料を配布しているが、年6回の開催には至っていない。	次年度からは年6回、コロナ感染症の如何に関わらず書面においても開催いただき、構成委員の方々からの意見や提案等を収集しサービスに反映いただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	感染症対策にて運営推進会議を開催せず、行政・地域交流を行っていない。	県や市からのFAXによる感染症対策やアンケート調査等に対応しているが、運営推進会議での訪問も無く、必要最小限の関わりである。市からの派遣事業である介護相談員の訪問も現在は中止となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ間で行うミーティング内において、身体拘束に関わる内容や指針を共有している。	身体拘束をしないことを大前提として、身体拘束や権利擁護など拠点内での研修を開催し、職員の意識を強化させている。また、外出傾向や帰宅願望等も見られ、職員が見守りを徹底し、職員の声掛けや対応など管理者として個別に注意喚起している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止に関する指針のもと、ホームで月に一度開催されている検討部会・グループミーティングにて関わる事故の周知と基本的知識習得のために定期的に時間を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ間ミーティングにて左記内容を学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項に関わる内容を説明している。 改定時には変更合意書を発行し、御家族様へ郵送。不明な点においては電話にて随時説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケート用紙、意見箱を玄関に設置しているが感染症対策にて投函はない。御家族様と連絡をとる中でご意見を頂戴し、ケアプラン更新や各職員へ申し送りを行っている。	家族に支援経過記録と写真等の送付による情報発信や、家族の受診同行時に希望などを聞き取りしている。また、電話による現状報告を行うと共に、希望等を聞き取りしている。コロナ感染症が落ち着けば、家族会の開催や、家族とのコミュニケーションを図りながら信頼関係作りに努める意向である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、管轄の施設長をはじめ事業所管理者、職員が集まり会議を開催している。別に事業所の職員だけの集まりもあり、そのなかで意見交換がなされている。	毎月の検討部会や理事長参加による現場責任者会議等を行い、意見交換が行われている。管理者は、意見や提案等何でも言いたいと投げかけ、1体1となる場面等で職員とのコミュニケーションを図り、情報を共有したいとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は日頃より一人ひとり評価し、普段の頑張りが給与等に反映されている。毎月一度ミーティングが開催され、上記同様意見交換が行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内において月に一度、認知症ケアに関する勉強会を実施し、自己啓発活動も推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症対策にて外部との交流を自粛している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所等の相談があった際に、サービス内容を細かくお伝えし、納得いただけるまで話を伺うよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスに至る経緯や背景を鑑み、ニーズを引き出しながら不安の無い利用へと繋げていけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様、御家族様の話を伺いながら当事業所の利用も含めた適切なサービスの助言を行っている。近隣の事業所の紹介、同法人他事業所へ繋ぐケースもあった。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	フェイスシートの情報と普段の御様子をしっかりと観察、情報共有することによりコミュニケーションを充実させ、密な関わりをもてるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用状況を書面や電話でお伝えしながら、事業所、ご利用者様・ご家族様との関係が疎遠にならないよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策にて外出・面会等は行えないが、電話でご友人への交流支援を行っている。	これまでは墓参等家族の協力を得て支援していたが、家族との受診、友人との電話や近くの神社への散歩等出来る限り支援している。	今後も入居者個々のバックボーン等を新たにリサーチし、次のステップとされることを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの関係や身体レベル等を考慮して現在の席を設けている。認知症を理解し御利用者の動きをみながらトラブル回避できるよう対応に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時には相談・支援できるよう、ホーム内における連絡体制を構築している。(管理者への報告)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	パーソンセンタードケア、ユマニチュードの考え方を伝達し、利用者視点・本位のケアを行えるよう勉強会を実施しケアプランにも反映させている。	入居者の思い等日々の関わりの中で把握し、自分の思いをうまく伝えることが出来ない方等意思疎通困難な入居者には家族の意向や生活歴等を把握し、本人の視点にもとづき話し合いを重ねプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートで不足している情報は随時ご家族様と関わる際にお聞きして更新している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	確実な申し送りと各担当、専門職が連携して左記内容を含めた情報の共有ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にご本人様、ご家族様のニーズを確認して、状態に合わせたプラン内容の更新とスタッフ間の担当者会議を開催している。	担当者会議の開催は出来ない状況にあり、担当職員からの気づきやその日の職員で検討し、家族に郵送し意向等が変更する点等がないかどうか見ってもらって正式なプランを作成している。転倒しないよう見守りをして欲しいとする家族の思いを具体的に組み入れる等家族の思いをプランに反映させている。毎月の話し合いや、半年毎の見直し、入退院時等の状態変化に応じた検討等により、現状に即したプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録には普段の様子もだが、プランのモニタリングとしての機能も含め記録をすよう周知している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	感染対策を実施しながら、その時々々の訴えや家族ニーズに可能な限り支援できるような心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は把握できているが、感染症対策を実施しながらであるため満足のいくサービスは実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	送迎対応、必要時には御家族様の代理で受診を行っている。状態変化時は主治医へ連絡し指示を受けるようにしている。	本人・家族の希望するかかりつけ医の継続や、主治医の指示により家族の了承のもと専門分野への受診も支援している。職員は日々のバイタルチェックや、コロナ感染症への対策は、関連法人の指導を受けながら徹底を図っている。歯科については職員による歯磨きの支援と、定期的に訪問歯科を受け入れ、必要な方のみ治療が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送り、引継ぎに関するノートやケース記録への記入により情報共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期受診時に日頃の御様子を逐一報告している。入院時には情報提供を行い、また退院される際には引継ぎを受け、相互の情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応・終末期ケア対応指針を入居契約時には説明し、意向の確認を行っている。ご家族様への連絡時にも意向を尋ね、変更時は全職員へ伝達している。	入居時に対応指針をもとに、ホームに出来得るところまで支援することを説明し、その時点での家族の意向を確認している。また、家族へ近況を報告する際、状態に変化が見られるような場合など必要に応じて、意向の再確認を行い職員間で共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故・急変発生時のフローチャートを活用している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練を日中想定、夜間想定 の2パターンで実施。	今年度は2月に防災業者の協力を得、通報訓練を実施している。管理者は日々の安全チェックは、自覚をもって行うことを伝えている。有事にさいして備蓄も備えている。	今後は火災に加え、自然災害についても机上を含めた訓練など、これまで発生した災害を風化させないような取組に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			いzi		
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮したケアの実施し、態度や言葉遣いについて不適切な言動があった場合は職員間で注意しあっている。	入居者への不適切な対応があった場合は、職員間で注意し合えるようにしており、呼称は苗字にさん付けで対応している。管理者は方音も丁寧に、イントネーションに気を付ければ入居者にとって安心して繋がるとしている。身だしなみへの支援として、訪問カットも感染症への対応から控えていたが、理容店へも十分な安全対策を依頼し、直近で再開している。個人情報に関して職員の守秘義務を徹底し、写真掲載などの使用については家族の承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動や考えを押し付けたり無理強いすることなく、御本人様の思われるペースで過ごせるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしについて希望を事前にお聞きした上で、表情や動きで思いを察知し、その日その日の状態に合わせた言葉かけやケアを行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケアの更衣時、入浴時の着替え等、本人様と衣服を選び必要時はアドバイスをを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	御利用者様には下膳配膳の支援をお願いしているが、調理等は感染症対策を踏まえた法人の方針にて遠慮いただいている。	朝食と主食のご飯(普通・二度炊き)をホームで作っている。副食は法人厨房へ職員が受け取りにいたり、ペーストやキザミなど嚥下状態に応じて提供されている。また、減塩味噌の使用など個別食にも対応している。感染症対策として、現在入居者が調理に関わる機会はない。	今後は誕生祝いやホットプレートを使ったイベント、おやつ作りなど、入居者と一緒に楽しみたいとしている。入居者の出番にも繋がることから実現が期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食席を考慮し、食べやすいよう自助具の選定、食事形態等随時検討している。摂取量を確認しながら利用者様によっては個別で補食・水を購入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の際に、歯科医師・歯科衛生士より助言をいただきながら口腔ケアを実践している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	御利用者様の様子に変化・排泄の予兆を確認した際にお声かけをしたり、食前食後には声かけを行い、日中は出来る限りトイレでの排泄できるよう支援している。	日中はトイレでの排泄を基本とし、表情やしぐさなどから察知したり、食前・食後には声掛けや誘導を行っている。現在はパットを併用しながらおむつやリハビリパンツを使用される方が主であるが、布パンツで過ごされる方も3名おられる。夜間のみオムツに変更やポータブルトイレの使用など個々に応じて支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、食事水分摂取を確認しながらDr指示にて適切な排便コントロールを実施中。尿便意があいまいな方でもトイレ便座に腰かけて頂いたり、腹部マッサージ等もやっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2、3回の間隔で入浴をすすめている。午前午後どちらでも入浴できるよう職員を配置し、希望に合わせて実施している。同性介助にも配慮している。	週2～3回の入浴を支援しており、拒否がある場合は職員を交代したり、午前・午後、その日の時間で変更するなど工夫している。また、同性介助への希望にも配慮している。時には炭酸ガス入浴剤を使用しながら、寛いでもらえるようにしている。身体状況からシャワー浴が中心になられた方もあり、冬場は特に冷える事のないよう注意を払い支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各々のペースに合わせて日中の臥床支援・夜間の就寝ケアを行っている。室温や室内の明るさ、衣類の調整等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各御利用者様の既往歴を把握し、服薬の確認も併せて伝達している。普段の状態変化にも目を配りながら、服薬変更時には注意点を申し送り、様子観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を考慮し、洗濯物たたみや掃除等の家事動作、余暇活動の支援を行い、その方々の能力に応じた役割をもって頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策にて外出を自粛している。近隣のドライブ支援、他者との接触がないよう散歩を行っている。	感染症対策から外出を自粛しているが、昨秋は立田山へのドライブ(紅葉見学)や、近隣神社への散歩は可能な限り継続している。職員は以前のような外出支援に努めたいとの意向や、入居者や家族も外出支援に期待されており、いち早いコロナ感染症の収束を願いたい。玄関先には開設時に植樹された八重桜が見頃を迎えており、リビングからの見学や散歩しながらの花見を予定している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人様、御家族様の同意の下で現金をお預かりしている。必要時は依頼を受け代理で買い物を支援する事もある。取り扱いのルールを職員へ周知している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば御家族様へ本人のお話をお伝えしたり、本人へ代わり電話の応答支援することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	動線の確保、自然の明るさを取り入れられるような家具配置、草花を飾りつける配慮も行っている。	ホーム内にはテーブルが置かれた食堂と、テレビやソファのある寛ぎのスペースが左右に配置され、双方への移動もメリハリや歩行訓練の一つに繋がっている。コロナ感染症への対策として、これまで以上に換気や室内の消毒を徹底している。高い天井は圧迫感のない空間となっており、大型ファンが2機付けられているが、掃除を含めたメンテナンスが行われておらず、現在、使用していない。	玄関はホームの顔でもあり、安全面からの整理整頓や洗濯物の干し場など検討いただきたい。また、管理者は掲示物(写真など)の見直しや洗濯機の音等も気になると認識されており、検討いただきたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、リビング、ダイニングの生活空間を駆使し、その方にとって過ごしやすい環境の提供と見守りができるよう職員の配置を都度考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた身の回りのものを持参いただき、御本人様にとって過ごしやすい生活空間となるよう環境整備に努めている。	本人にとって使い慣れた日用品や家具などがあると安心されることを伝えており、タンスやテレビ、季節の衣類などが持ち込まれている。また、壁には思い出の写真、職員から贈られた誕生祝いの色紙も掲示され、色紙からはその方の入居年数などを知ることができる。冬場は特に加湿に努めており、自宅から加湿器を持参された方や職員によって濡れタオルが下げられている。日中はリビングで過ごされる方もおられるが、食後に居室で休まれたり新聞を読まれる方等自分の部屋として自由に過されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に目印をつけたり、歩行器での移動や車椅子自操がしやすいよう移動空間を広くとり、障害物を取り除く工夫を随時行っている。		